

むずかしい漢字とことば

人道支援(じんどうしえん) = 自然災害や武力抗争(ぶりょくこうそう)などで飢餓(ききが)や病気、貧困に苦しんでいる住民を、危険を承知で必要な物資や人材を送り届けること 銃撃(じゅうげき) 縁(えん) 緩(ゆる)め 磨(みが)く 快諾(かいだく) = ころよく聞き入れること 中枢(ちゅうすう) = 物事を中心になる、もっとも大切なところ 開催(かいさい) 義侠心(ぎぎやくしん) = 弱い人がいじめられたり困ったりしているとき、助けようとする心 医療(いりょう) 聴衆(ちょうしゅう) 怒(おこ)り 誰(だれ) 雰囲気(ふんいき) 薦(すす)め 偉大(いだい) 執筆(しつぴつ) 勸(すす)め 書籍(しょせき) 活躍(かつやく) 全幅(ぜんぷく) = ありったけ。すべて 信頼(しんらい) 離島(りとう) 診療(しんりょう) 埋(う)め 覚悟(かくご) 祈(いの)り 悟(さと)らせ 魂(たましい) 途上国(とじょうこく) = 経済や技術、生活水準が未発達な国 派遣(はけん)

寄稿

中村哲先生と鹿児島

堂園メデイカルハウス院長 堂園晴彦

どうぞの・はるひこ氏 1952年、鹿児島市生まれ。東京慈恵会医科大学卒業。鹿児島市の堂園メデイカルハウス院長。途上国の医療ボランティア派遣などに取り組んだ。

長年にわたりアフガニスタンで人道支援を続ける非政府組織(NGO)「ペシャワール会」(福岡市)の現地代表、中村哲医師が銃撃され亡くなりました。

私と中村先生との最初の出会いは2001年7月。医学生をペシャワールの病院に勉強に行かせたいとのお願いに、福岡を訪ねた時からの縁でした。パキスタン、アフガニスタンで医学生は何を学べますかと質問すると、少し口元を緩めながら、「男が磨けます」と返ってきました。男を磨くとは「自分で考え、自分で努力し、自分で解決できる力を訓練する」意味であると、理解しました。訪福時、10月に講演をお願いし、快諾を得ました。

講演会の際、「質問ありますか」とよく聴衆に投げかけていました。いつも「何でも聞いてください。怒りませんから」と、会場を和ませ、誰でも質問できる雰囲気をつくってくれました。自分のことを「バカボンのパパに似ているでしょう」

講演会の時、「質問ありますか」とよく聴衆に投げかけていました。いつも「何でも聞いてください。怒りませんから」と、会場を和ませ、誰でも質問できる雰囲気をつくってくれました。自分のことを「バカボンのパパに似ているでしょう」



講演のために鹿児島市を訪れた中村哲先生  
2001年10月28日、鹿児島市の県医師会館

日本人よ、人間を磨け

と、笑いを取ったりもしていました。若者からのどのような質問には、内村鑑三の「後世への最大遺物」を薦めていました。この本の主旨は、「何をなしたかではなくて、何をなそうとしたかである」です。まさに中村先生がアフガンで何をなしたかではなくて、何をなそうとされていたのか、私たちが遺されたものが問われている気がします。偉大な日本の良心であった中村先生は、意外と思われるかもしれませんが、鹿児島と縁の深い方でした。ハンセン病について星塚敬愛園の今泉正臣園長から多くを学ばれました。また、甲南高校出身の福元満治氏が「ペシャワール会」の理事として事務局の代表的役割を担っています。福元氏は出版社「石風社」の代表が本業だからか、中村先生に執筆を勧めました。それにより、会の活動が書籍を通して全国に知られ、会員も増えました。

ペシャワールの病院で看護師として大活躍していたのが鹿児島出身の藤田千代子氏です。中村先生も全幅の信頼を寄せておられました。現地で長年中村先生の医療サポートをしていたのが、徳之島で離島医療をしている小林晃先生です。中村先生が水路造りなどで病院を留守にする時などは、診療の中心的な役割を担っていました。

「中村先生は1年前からアフガンに骨を埋めてほしいと語っていた」との記事を読み、死を覚悟していたことが推測されました。死を覚悟してまで伝えなかったのは「日本人よ、人間を磨け」ということだと思えます。自分自身は65歳の時に「これから最低10年はじいを磨く」と、私に話していました。

フランチェスコの「平和の祈り」の一節に、「死ぬことよつてのみ、永遠の命に蘇(よみがえ)ることを深く悟らせてください」とあります。私たちの魂には、中村先生は「永遠の命」として、存在し続けるでしょう。

【問1】「男が磨けます」という中村哲先生の言葉を、堂園晴彦さんはどんな意味で理解したのでしょうか。

【問2】堂園晴彦さんは中村哲先生のことをどんな方だと書いているでしょう。

【問3】中村哲先生が講演会で若者に勧めた本の主点は何だったのでしょうか。

【問4】中村哲先生が死を覚悟してまで伝えなかったことは何だと書いてあるでしょう。

【話し合ってみよう】中村哲先生の生き方や考え方について話し合おう。

【問1】「男が磨けます」という中村哲先生の言葉を、堂園晴彦さんはどんな意味で理解したのでしょうか。

自分で考え、自分で努力し、自分で解決できる力を訓練する

【問2】堂園晴彦さんは中村哲先生のことをどんな方だと書いているでしょう。

約束は必ず守るという義侠心にあふれ、おとこ気のある方

【問3】中村哲先生が講演会で若者に勧めた本の主点は何だったのでしょうか。

何をなしたかではなくて、何をなそうとしたかである

【問4】中村哲先生が死を覚悟してまで伝えなかったことは何だと書いてあるでしょう。

日本人よ、人間を磨け

【話し合ってみよう】中村哲先生の生き方や考え方について話し合おう。